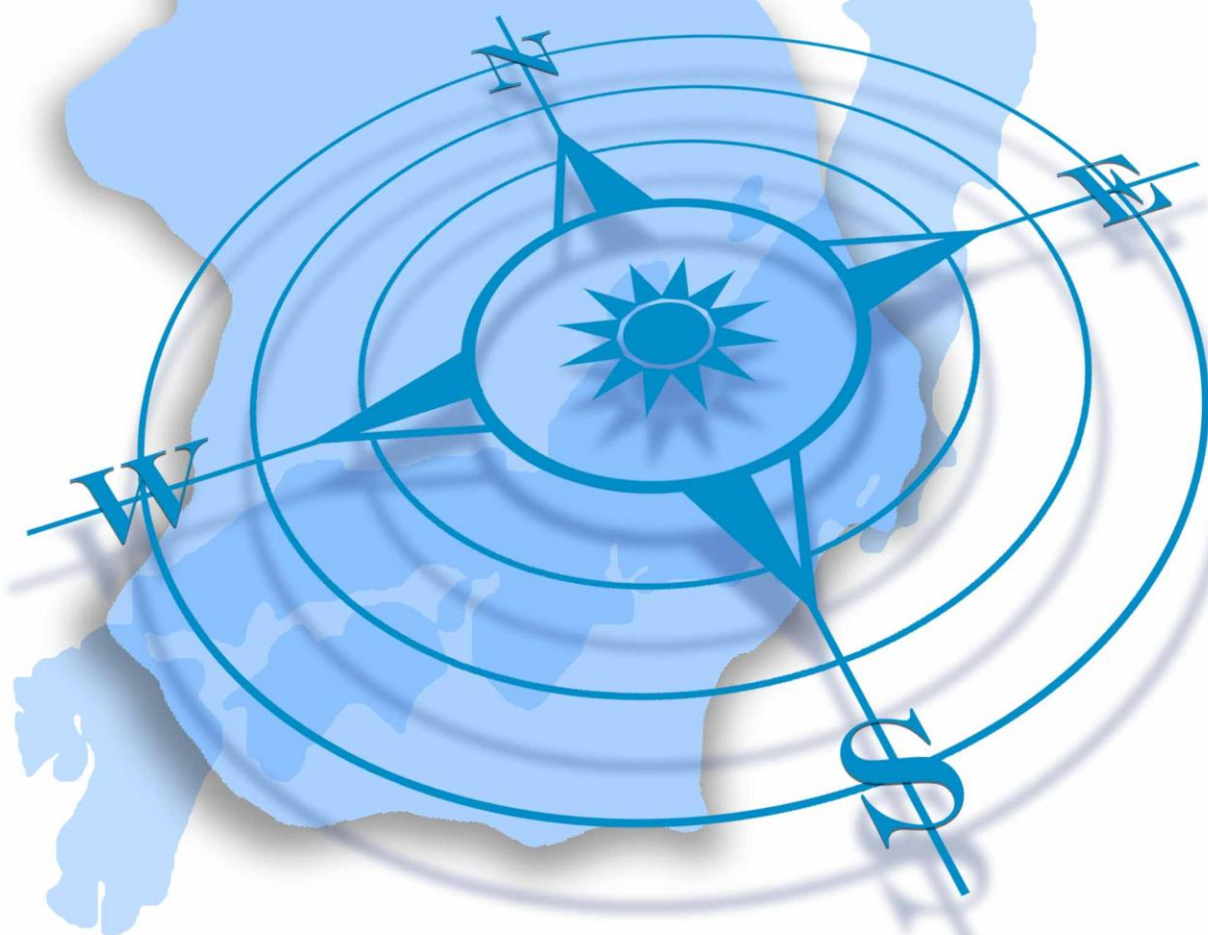


# GRAND DESIGN

～イノベーションで“いわき”を変える～



平成 24 年 8 月  
社団法人いわき青年会議所



## グランドデザイン策定にあたり

2012年度 いわき青年会議所  
理事長 丹野 知

まず、「グランドデザイン」とは、「将来像」をあらわすものです。つまりここでいう「グランドデザイン」とは私たちいわき青年会議所の方向性を示す全体構想、または今後の設計図のことです。私は2012年度の組織図における各セクション（委員会）の事業を実施させるにあたり、まずは自身の理事長所信から基本方針を導き出し、そこから年間計画、そして各事業計画の作成という流れをくみました。この流れは組織図の構成と同様、計画が実施に至るまでには大元の源流に理事長所信が存在するというものです。ただこれは単年度という枠内での事業実施までの流れにすぎず、数年間の一貫性のある活動を示すものではありません。そこで重要なのが「グランドデザイン」です。「グランドデザイン」は理事長所信の上位概念に当たるといえるでしょう。つまり「グランドデザイン」は数年間の各理事長所信の前提と捉えてよいのです。

今後、今回策定された「グランドデザイン」を元にこのあと数年間、理事長の所信の上位概念として位置づけられることにより、単年度制の「不連続の連続」といわれる青年会議所の活動に一本の大きな軸が生まれるでしょう。2011年東日本大震災が起こるまでは何が正義で何がお節介なのか？何が奉仕で何が自己満足なのか？迷った時期も多々ありました。ただこれはその時が平和だったからそう思えたのかもしれません。2012年度、我々の故郷福島、いわきのおかれている現状は、先行きがあまりにも不透明かもしれません。今ここに「グランドデザイン」を策定することで、これを軸にここ数年間、青年会議所は単年度制ながらも一貫性のある事業を展開することにより、正義は正義であれ、奉仕は奉仕であらんとする活動をする強い組織となりうるでしょう。

結びに今回の策定が今後の福島、いわきの明るい未来と明るい市民の笑顔をもたらすおおきなきっかけとなることを切に祈念し、今回の「グランドデザイン」策定にあたっての挨拶と致します。

# 目次

1. はじめに	1
2. いわきの現状と課題	2
3. いわき J C グランドデザイン基本方針	5
4. いわき J C グランドデザイン基本構想	9
5. 実現にむけた取組み	12

## 1

## はじめに

環境に恵まれた美しいまち「いわき」

先人たちは、まちの魅力を繋ぎ、重ねながら、このいわきを創造してきた。

我々は一市民として、青年会議所会員として、この美しいいわきの更なる発展を強く願っている。

社団法人いわき青年会議所(以下いわきJCと略す)が誕生して8年。変化を続ける社会環境の中で、我々は人間力を磨き合いながら、地域社会の発展を目的とし、歩を進めてきた。しかし、この美しいまちではあるが、時代の流れの中では、思うように特色に付加価値を残すことができずに今日を迎えている。

更なるいわきの発展と先人たちが残した財産を、時代にマッチしたかたちで繋ぎ、いわきを計画性のもとで継続的に発展させるため、活動の指針となる社団法人いわき青年会議所グランドデザイン(以下GDと略す)を策定するに至った。

策定にあたり、これまでの概念にとらわれ過ぎず、変化を恐れず運動できる世代が私たち青年、そしてその団体がいわきJCであると考えた。このGDはこれまで「よそのもの・わかもの・ばかもの」と呼ばれていた「市外からの視点・若者からの視点・新しい今までにない視点」も取り入れ、成熟社会における多様化したニーズに対応できるように心掛けて策定した。

GD策定後においては、これをいわきJCの5～10年を見据えた中期ビジョンとし、このグランドデザインに基づいた活動を行っていくことで方向性を一つとし、相互作用を起こし、LOM内を活性化、いわきを活性化させることを狙いとしている。

我々は「新たなる公共」として機能し、市民は自らがそれぞれ行動し、まちを使い、まちをつくっていく5～10年としたい。「個人の自律性と社会の公共性がいきいきと協和する確かな時代」とはこのことであると私たちは確信している。私たちの努力の上に個人と社会が支え合う「明るい豊かな社会」が訪れるはずである。

共に持とう笑顔へ向かうまちづくりコンパス

## 2

## いわきの現状と課題

## 2-1. いわき市の現状と課題

いわき市は、一年を通じ温暖な気候、首都圏や東北各県への良好な交通アクセスなど、企業立地や交流人口の拡大につながる地理条件にメリットが多い。一方で、生活を支える産業基盤の衰退、若年層の市外流出など、経済を維持していく上で、大きな課題を抱えており、活性化したまちというにはほど遠い。また、東日本大震災からの復興の姿や、今後の防災のあり方などについても明確でない。

官民が相互に発展し、共により良いまちを目指していく必要がある。

## ●産業の衰退

1970年代に常磐炭田が閉山するまで石炭採掘を中心としたエネルギー産業により人口は増加し、まちにも活気があった。エネルギー産業が石炭から石油に変換した際には、エネルギー産業から工業品製造産業、観光産業などへの変換に成功し、東北一位の工業製品出荷額と、東北でも有数の観光交流人口を誇る都市に成長し、人口流出を食い止める事に成功した。

しかし、リーマンショック後の製造産業の海外シフトなどにより、基幹産業が衰退し、雇用機会が減少している。地域の新たな基幹産業の創造と雇用機会の創出が必要である。

## ●雇用機会の減少

高校卒業後、首都圏を中心とした他の地域への就職、進学する割合が多く、流出した人材がいわきへ戻ってこないことが問題となっている。

この若年層の市外流出の原因は、まさしく雇用機会の減少である。この問題は日本の地方都市全体に見られる現象であるが、いわき市は深刻である。若年層が希望を持って就労できる環境を整えることが必要である。

## ●市街地の空洞化と帰属意識の減少

魅力ある都市の形成や地域愛の醸成なども大きな課題である。

いわきの若年層は地域愛を持っている割合が低いと感じられ、これらの年代が生活しやすく、誇りを持てるまちづくりが必須であると考えられる。

若年層が生活しやすく、誇りを持てるまちにするには、中心市街地の活性化も欠かせない課題である。若年層や高齢者はいわきでの主たる交通手段である車を持っていない。これは、買い物に行くにも、余暇を楽しむにも大きな障壁となり、これは地域

愛が薄い原因となっている。公共交通機関のハブとなるべき駅前などの活性化も欠かせない課題である。

生まれ育ったいわきに対して思い入れを持ち、地元で就職し生活していく手法を自ら考える人を育てていく必要がある。

### ●生活における不安

医療環境の改善も重要な課題である。人口に対する医師の割合が低く、高度医療はおろか、常識的な医療提供にも支障をきたす状況にある。

市内の医療環境改善を望む市民のニーズは非常に高く、市民の安全安心を担保出来ない状況が続くことは、結果的に不安を抱えながらの生活になる。

また、昨年発生した東日本大震災では、上記のような状況に追い討ちをかける結果となった。地震、津波によるいわき市内での被害は死者、行方不明者は300名を超え、住宅、建物被害(全壊数+半壊数)40,000戸以上に及び、大きな爪跡を残し、防災や有事の際の対応の弱さも露呈した。

それにもまして、原子力発電所の事故が発生したことにより、放射線という新たな不安要素が発生した。これらの不安要素の解消と風評被害の払拭については、非常に大きな課題であると考ええる。

これら様々な課題を解決し、市民の笑顔あふれる社会の実現を目指して、私たちいわきJCは果敢に挑戦し、いわきの「新たなる公共」として機能していかなくてはならない。

## 2-2. いわき J C の現状と課題

前述のいわき市の問題に加え、いわき J C としても多くの問題を抱えている。

若年層の人口減少に伴い、若手メンバーも減少している。また、産業の衰退により、会費を払って地域のまちづくりに協力できる人、企業が減少している。この問題については、産業育成、郷土愛の醸成が解決に必要であると考えられる。

また、潜在的な問題として、イベント的な事業に集中する傾向がある。イベントは一見達成感、満足感もあり、結果が出ている様にも感じられるが、地域の発展として考えると、大きな結果を残さない場合も多々ある。イベントを起爆剤とし、活動する市民を増やすことで地域の発展に寄与するものでなくてはならない。これについては、本GDにより、いわき J C として取り組むべき内容を明確にし、方向性のブレない事業が達成出来る様にすべきと考える。

また、2005年にいわき市内に組織されていた5つの青年会議所が統合され、会員数100名を超える組織となつてからは、組織運営や事業活動における情報共有が十分とは言えず、メンバー間での情報量に差が生じている。情報共有や認識に違いが出ることで、活動に対する意識や行動に違いが出てはならない。

いわき J C は明確な目的を共有し、市民を導き、市民と共にまちをつくるオピニオンリーダーである必要がある。

## 3

## いわきJCグランドデザイン基本方針

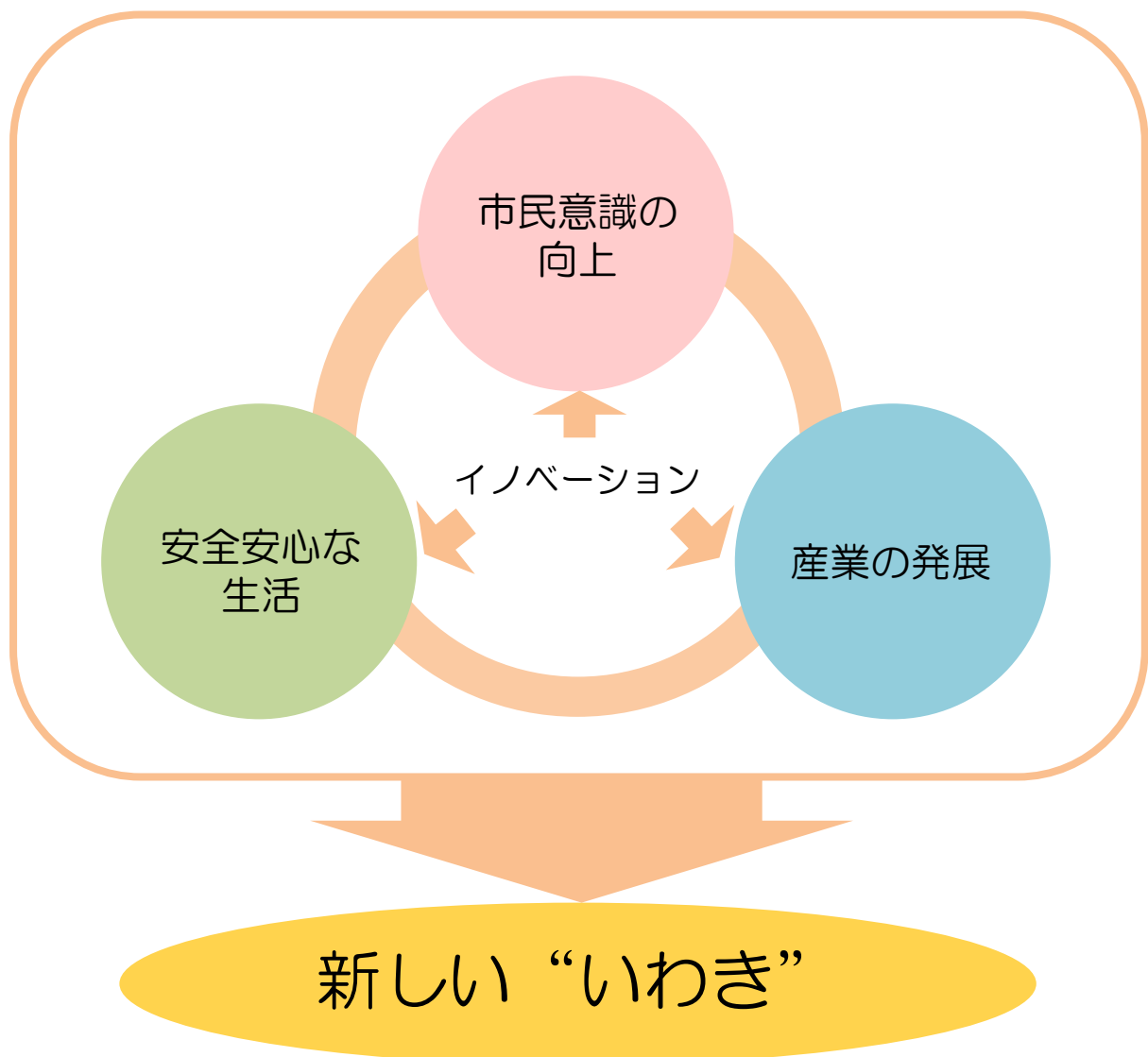
我々いわきJCは、地域のオピニオンリーダーとして新しいいわきを創造していかなければならない。そのためには、新しい時代を創る「原動力」＝「イノベーション」が必要である。以下で示す3つの基本方針それぞれへイノベーションを投入し、いわきで生活する人たち、いわきにゆかりのある人たち、いわきに係るあらゆる人たちが笑顔で暮らすことのできるいわきを目指す。

新しいいわきを創造するには、3つの基本方針どれかひとつが欠けても達成することはできない。

よってすべての基本方針に関連性を持たせた事業を展開し、それぞれに相乗効果を上げていくべきである。

～イノベーションでいわきを変える～

3つの基本方針



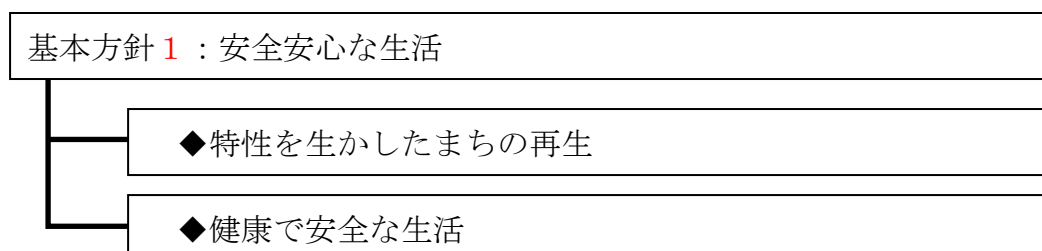


### 3-1. いわきJCブランドデザイン基本方針

#### 基本方針1：安全安心な生活

安全安心な生活は市民が最も求めるものであり、かつ最低限必要なものである。我々は、この中から「特性を生かしたまちの再生」、「健康で安全な生活」について取り組んでいく。

#### 【取り組むべき方向性】



#### ◆特性を生かしたまちの再生

近年、商業施設の郊外シフトやインターネットによる通信販売の普及によって、中心市街地に買い物などの用事に人が訪れることは少なくなった。その反面、車を持たない学生や高齢者が、買い物や通院に不便を感じる状況になっている。

また、いわき市の中でも行政機関などが集中し交通の結節点でもあるいわき駅周辺が市民にとって有効に利用されていない状況である。

若者の自己表現する場として、学生たちが青春を謳歌するステージとして、恋人たちが手をつないで歩く舞台として魅力に乏しいという現状は、次世代を担ってもらうべき若者を市外へ流出してしまう原因ともなる。郊外においては問題がさらに顕著で、若者や高齢者が安全安心な生活を送るためには課題が多くある。

全ての世代が、安心して生活できるようになるためにも、交通機能充実を行うと共に、安全安心な場所に人が集まり賑わう仕組みづくりが必要である。

#### ◆健康で安全な生活

いわき市は医療に大きな問題を抱えている。人口当たりの医師の数が全国平均に比べ極端に少なく、救急医療も危機的状況と言えるほどである。また、東日本大震災後はこの傾向が悪化し、医師・研修医、他の医療従事者の数が減り、さらには避難を余儀なくされた人々がいわきに集まり、医療現場は混乱している。

また、重大疾患検診率が低く、予防医療に対する市民意識の低さが感じられると共に、高度医療の提供も不十分である。

医療環境改善のため、市民の健康意識の改革による医師及び医療機関の負担軽減の取り組みと、医療サービスの充実が不可欠である。

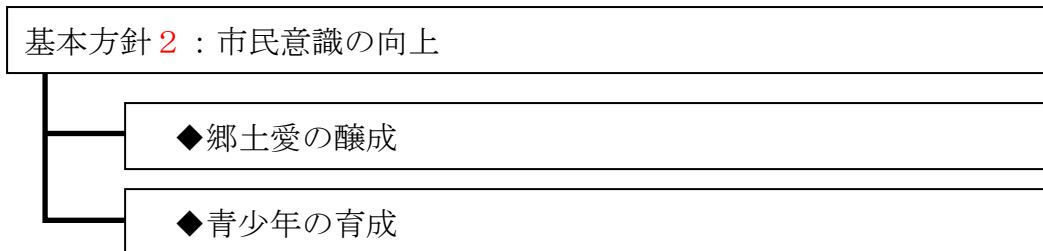
更には、大震災を経験したまちとして、防災などの取り組みの強化も必要である。自助・共助の取り組みを強め、健康な生活を維持できるよう努める。

## 基本方針 2：市民意識の向上

いわき市はいわき市民が創り上げるものである。市民が自ら考え行動することにより、より良いいわき市へつながっていく。この市民運動を促す為には、より高い市民意識が必要不可欠である。

ここでは「郷土愛の醸成」、「青少年の育成」の2つに絞り、市民意識を向上させる活動を進めていく。

### 【取り組むべき方向性】



#### ◆郷土愛の醸成

いわき市には、多くの誇ることができる地域の宝がある。自分たちのまちは自分たちでつくっていくという意識を持たせるには、このいわき市にある宝を再確認し、詳しく認識し、そこに大きな愛情を持たなければならない。これらを我々は「郷土愛の醸成」とし、市内外問わず意識定着を目指す。また市民それぞれが郷土愛を持つことにより、次世代へいわき市の宝を確実に継承する。

#### ◆青少年の育成

次世代を担う青少年は、今後のいわき市の活力となる重要な資源である。

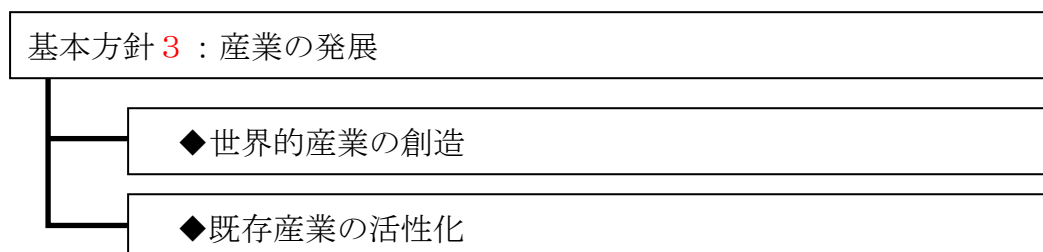
青少年が今後いきいきと、たくましく生きていくために、相互信頼を強め、相互作用のもとで未来をつくりあげることが求められている。

また、青少年の育成には我々大人が重要な役割を果たす。つまり青少年の育成には青少年だけではなく市民全体の意識改革が必要である。まず、思いやりの心や感謝の心などを大人が青少年達に示すことが重要である。家庭、地域などいわき市民全体が青少年に真剣に向き合い、地域で子どもたちが成長していけるよう方向づけしていく必要がある。

### 基本方針 3：産業の発展

産業の発展は経済面だけでなく、雇用や賑わいの創出などにも大きく寄与する。そこで、「世界的産業の創造」、「既存産業の活性化」の2つに絞り活動を進めていく。

#### 【取り組むべき方向性】



#### ◆世界的産業の創造

いわき市は、エネルギー産業の衰退後、工業品の製造を中心とした産業へシフトした。しかし、グローバル化の波に押され、製造業の海外シフトが加速し、地元経済を支える基幹産業が無くなりつつある。製造業などは、いわき市独自の産業ではなく、大企業の工場誘致という形で成立していたため、いわき市に工場があるメリットがなければ、撤退の可能性も増えてくる。そこで、独自性を出した世界に誇れる産業を創造し、長期に渡り、いわき市でしかできない産業の育成を進める。また、次世代の基幹産業となり得る産業を模索する。

#### ◆既存産業の活性化

農林水産業など、地域性を生かした産業がいわき市には多くあるものの、それを主たる産業に成長させることはできていない。また、エネルギー産業衰退後、観光業などにも力を入れており、こちらは一定の成果は挙げているものの、基幹産業と言えるまでの成果が出ていないのも現状である。観光産業だけでなく、地域に不可欠な小売、飲食業などの産業についても、基幹産業の衰退により力を弱めている。そこで、これらの産業の持続的な発展を目指す活動を進めていく。

地産地消をはじめとした地域独自の経済流通や、交流人口の増加などの経済波及効果向上を目指す。

## 4

## いわきJCグランドデザイン 基本構想

## 基本方針1：安全安心な生活

## 取り組み①：特性を生かしたまちの再生

- 中心市街地の魅力復活とコミュニティの再構築
- 地域情報の収集、発信による人がまちに集まるきっかけづくり(青少年がステータスを感じ、学び遊びが展開出来る環境の整備)
- 文化の継承と新しい若者文化のバックアップ
- 生活における支障の改善(ユニバーサルデザインの普及/治安などの維持)
- 交通網の検証と提言
- 郊外と中心市街地の連携

## 取り組み②：健康で安全な生活

- 健康不安要素に対する有効で正確な情報の発信
- 健康の維持、疾病予防のための意識の向上
- 医療環境の検証と提言(医療関係機関や市民との意見交換、連携など)
- 防災意識の向上
- 有事の際のネットワークづくり

基本方針 2：市民意識の向上

取り組み①：郷土愛の醸成

- このまちでしかできないことやこのまちの楽しみ方を伝える
- 地域の宝の再認識と新たな価値の創造
- 自分のまちの仕組みについて学び合い、政治や行政への関心の増幅
- 市民が自主的にまちづくりに参加できるきっかけづくり

取り組み②：青少年の育成

- 学び合い、教え合いによる思いやり精神の育成
- コミュニケーション能力の育成
- 創造性豊かな人材の育成
- 市民全体での健全な心身を育む環境づくり

基本方針 3 : 産業の発展

取り組み① : 世界的な産業の創造

- いわきのブランド化(新戦略によるいわきブランドとしての発信/新たな基幹産業となり得る産業の模索)
- いわき市に必要な企業などの誘致活動、行政への提案
- 行政ではできない、大小問わずいわき市の産業全体の連携を図るきっかけづくり
- 企画、開発から進める産業の創造

取り組み② : 既存産業の活性化

- いわき市の産業の維持と付加価値の創造
- 社会課題、地域資源の掘り起こし
- ワンステップ先を見据えた経営活動支援
- 地産地消の推進
- 交流人口増加の方法検討と推進

## 5

## 実現に向けた取り組み

GDの実現のためには、その継続的な運動の中で、メンバー個々が成長し、いわきJC自体がより強い組織へと成長していかなければならない。

ここに、いわきJCが目指すべき組織像と運動の方針を示す。

### 市民のための運動

公益法人であるいわきJCの活動において、最終的な受益者は、地域社会の未来であり、そこに暮らす不特定多数の市民に他ならない。

このGDの実現のためには、我々が「地域に対して何をしたいか」を考えるのではなく、地域が「我々に何を求めているか」を常に念頭におき、方向性とスタンスをしっかりと見出した中で、明確な「実績」を上げ続けることが求められる。

### 運動の展開と成長

我々が描いたGDは、短期間の運動・事業により実現できるものではない。短期的な事業の成功による自己満足に陥ることなく、大きな目的に向かっての果敢な挑戦と、小さくとも明確な実績を積み重ね、継続していくことで、着実にその実現へと邁進するものである。

そのためには、各事業計画を確実に実行した上で、結果を十分に評価・検証し、次年度以降の事業計画に確実に継承させ、改善していくことが求められる。

更には、日本JCや各協議会と連携した運動を、継続的かつ広域的に発信し続け実績を積み上げていく事も重要な運動の土台となっていく。

### 法令遵守と運動の発信

我々は、地域の未来そして市民の負託に応える活動をつづけることでその存在を許された公益法人として、法の求めに則った健全な組織運営を行い、その活動の内容を広く市民に発信する責務がある。

それらの情報は、対内的な部分に視線を向けるものではなく、受益者たる地域及び市民に焦点を当て、我々の取り組みが真に社会から必要とされている成果として広く世界に対して広報を行い、地域社会から賛同を得なければならない。

### 協働による“ひと・まち”づくり

我々が常に主体的に活動することができなくとも、肝心なことは、地域の未来の為に、GDが確実に実現することである。

このGDに記されている事は、我々いわきJCの力だけで実現できるものではない。志を同じくする他団体や行政との連携と、日本JCやOBをはじめとする様々なネットワークを活用することによって効率的で、確実な実現の道を開拓することが肝要である。

また、他団体との連携を行うことで、メンバー個々及びいわきJC自体の立ち位置を知ることにより、その中で運動を行うことは更に自らを成長させる糧となる。

### 強い組織づくり

我々は、市民のために運動を継続的に発信し、地域社会から必要とされる強固な組織に発展しなければならない。

そのためには地域の明るい未来像を共有できる多くの仲間を募り、スケールメリットを生かすことができる戦略的な運動を展開する必要がある。

また、日本JCや各協議会と連携することにより、我々の運動はさらにスケールの大きなムーブメントへと成長する可能性を持っており、客観的な視点で現状に則した最善の「判断」をすることで、我々の更なる組織力強化といわき市の発展につながる。

これらの運動の中でメンバー個々は、公人としての自覚を持った行動に努め、互いに尊重しあい奉仕の精神を養うことで、オピニオンリーダーとしての資質を向上させ、次代を担う新たなリーダーの育成に取り組んでいかなければならない。

これらの強い組織づくりが現実のものとなれば、地域に広がる不安や課題を次々と解決することに繋がるだけでなく、志を同じくする若者が多く集う「いわき」の明るい社会を実現する組織となる。



# いわきJCランドデザイン全体像

目標	基本方針	方向性	具体
新しい《いわき》の創り	基本方針 1 安全安心な生活	① 特性を生かしたまちの再生	<ul style="list-style-type: none"> <li>○中心市街地の魅力復活とコミュニティの活性化</li> <li>○地域情報の収集、発信による人々のつながりを感じ、学び遊びが展開出来る環境の創り</li> <li>○文化の継承と新しい若者文化の創り</li> <li>○生活における支障の改善(ユニバース)</li> <li>○交通網の検証と提言</li> <li>○郊外と中心市街地の連携</li> </ul>
		② 健康で安全な生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>○健康不安要素に対する有効で正しい対応</li> <li>○健康の維持、疾病予防のための意識の醸成</li> <li>○医療環境の検証と提言(医療関係者との連携)</li> <li>○防災意識の向上</li> <li>○有事の際のネットワークづくり</li> </ul>
	基本方針 2 市民意識の向上	③ 郷土愛の醸成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○このまちでしかできないことやこのまちならではの価値の創り</li> <li>○地域の宝の再認識と新たな価値の創り</li> <li>○自分のまちの仕組みについて学び、改善の提案</li> <li>○市民が自主的にまちづくりに参加</li> </ul>
		④ 青少年の育成	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学び合い、教え合いによる思いやりの心</li> <li>○コミュニケーション能力の育成</li> <li>○創造性豊かな人材の育成</li> <li>○市民全体での健全な心身を育む</li> </ul>